

2023年11月1日(第4回)
2023年度JLA中堅職員ステップアップ研修(1)
領域: I 社会の変化に対応する図書館サービス 区分: B
相宗 大督(大阪市立城東図書館)

アウトリーチサービスを考える

従来からあった「アウトリーチサービス」とは少し次元の異なる内容のおはなしになると思います。
特に、従来の「アウトリーチサービスの対象者」とは違う利用者層へのサービスについて考えるお話がメインになります。
→けどまったく違うというわけでもない。
また、講義中の意見部分に関してはすべて講師の個人的見解となります

I アウトリーチサービスの定義と実際

(1) 定義

「施設入所者、低所得者、非識字者、民俗的少数者など、
これまでの図書館サービスが及ばなかった人々に対して、サービスを広げていく活動」
『図書館情報学用語辞典』(第5版, 丸善出版)
「アウトリーチ活動: 図書館サービスの圏域内であるにもかかわらず、
これまでの図書館サービスが及ばなかった人々に対して、サービスを広げていく活動。」
文部科学省「これからの図書館像」(2006年)等

- 「図書館サービスが及ばなかった人々」→障がい者、高齢者、多文化、ディスクレシア
- 国内ではエクステンションサービス も含んで語られることが多い

(2) 実際

- 組織全体の業務として進めないと継続しない
- どうしてもある程度の規模感が必要(=小回りがきかない)
- 担当者の意向や熱意に左右される(図書館側もサービスの受け手も)
- 図書館のリソースは有限であって、すべてを支えることは現実的でない

(3) 最近のアウトリーチサービスの例: 新型コロナウイルス感染症

感染症関連情報の提供。ウェブコンテンツの提供(北海道、千葉、神奈川、群馬、岐阜・・・)
国会図書館リサーチ・ナビ「新型コロナウイルスに関する図書館等の取組」
https://rnavi.ndl.go.jp/jp/guides/post_1168.html

- 国会図書館 個人向けデジタル化資料送信サービスの開始

2 「アウトリーチサービス」への認識について

- 「図書館利用に障がいがある人々」をどのように捉えるか
新型コロナウイルスの流行→多くの人が「図書館利用に障がい」のある状態に陥った
個々の利用者・個々の図書館、どちらにも責任がない
電子図書館サービスの充実が(ある程度)その状態の救いになった
- [問題提起]「図書館利用に障がいがある人」=「サービスが及んでいない」
いろいろなパターンがあるのではないだろうか？
サービスの対象として見ていなかった、あるいは等閑視してきた人々がいるのではないか？

【事例紹介】 鹿児島県指宿市からのレファレンス

「大阪市住吉区・東住吉区付近の地域「長居」における、戦後から現在までの移り変わりを知りたい」というレファレンス。依頼者は指宿市に在住の方で、依頼者の知り合いが戦後間もない頃に長居から指宿に移住しており、その方のために調べているというもの。指宿市に大阪市の資料をどのようにして届けるか？が提供の際に課題となった

皆さんの業務で似た経験はありますか？

3 図書館サービスを考える

- 「図書館サービス」とは何か？
 - ・情報提供が基本(公立図書館の任務と目標)≡貸出・レファレンス
社会の情報化が進んだ現代で「情報提供」という言葉が指す活動が
従来と同じままであるとは思えない
- 図書館を取り巻く変化
 - ・ウェブを活用した各種サービスの充実(例:デジタルアーカイブ、SNS)
 - ・「サードプレイス」「人が集まる場所」としての図書館
図書館の利用のされ方に新しい動きがみられる
 - ・「図書館でできることは何か」が問われる
参考:平賀研也「情報技術を基盤とした「Library3.0」の実装:「学びの自治」を可能にする「知のコモンズ」へ」(『社会教育』2020年8月号)
- 図書館サービスの出発点として
 - ・図書館と利用者を捉えなおす
 - ・提示するのは(「本が借りられる」というだけでなく)「図書館でできることは何か」
「図書館が何をするか」を示すのではなく、
「図書館で何ができるか」の可能性を示す
- 片務的なサービスでは図書館のポテンシャルを活かせない

● 広報の工夫も考えられる

「ググって分からず図書館へ→2日で解決 こんなにすごい「レファレンスサービス」」

Jcast ニュース, 2022年7月19日 11時35分

<https://www.j-cast.com/2022/07/19441961.html?p=all>

・誰に示すのか?→図書館の利用者(=みんな)

● 留意点:リソースは有限なのでやりくりが重要。図書館の特徴を活かす。

ターゲットを意識する

● 中心にあるものはなにか→図書館資料(情報資源)

アーカイブとしての図書館

⇒(いま、やろうとしていることは)他の施設でできることかもしれない

4 事例紹介

セーターブック

セーターブックとは昭和の終わりから平成にかけて、当時人気のあった男性芸能人のグラビアと編み図で構成された編み物の本。もとはMixiでこうした図書を愛でるコミュニティがあったことから始まっている。2019年にウェブ版の「CREA」がとりあげて話題になり、ラジオで特集が組まれるなどの話題となった。

今振り返る“セーターブック”の世界 - CREA Web

<https://crea.bunshun.jp/list/feature/crea201902-sweater-book>

「表紙は風間トオル、唐沢寿明 セーターブックに見る平成」

朝日新聞デジタル, 2019年3月25日 16時59分

<https://www.asahi.com/articles/ASM3Q6SY2M3QPTIL05S.html>

熊本・大分応援展示

2016年の熊本地震で大きな被害を受けた両県の応援のために実施した図書展示。大阪にあるそれぞれの県の大阪事務所に連絡をとり、観光パンフレットの提供を受ける。県事務所の協力を受けて実施する展示は、その後、長野県、長崎県等でも実施している。

SNS 懐ラノ

大阪市内にある十代向け図書を専門に扱う古書店「大吉堂」の店主が始めたハッシュタグ#懐ラノ(懐かしのライトノベル。ただし定義は不問)にあわせて実施した図書展示とトークイベント。Twitterで懐ラノの紹介を呼びかけ、その際に#懐ラノに加え#図書館利用 OKのハッシュタグを二つ合わせた投稿を行ってもらうとで、その投稿を印刷し、図書館で掲示した。

トークイベント 懐かしラノベの魅力を語ろう!

https://www.youtube.com/watch?v=dU4JO_dEBOA

TRPG シナリオ作成支援ブックトーク

図書館総合展 2021 連続フォーラム第2回 フォーラム in 酒田にて実施(6月21日)。

代表的なTRPGであるクトゥルフ神話TRPGを使い、1920年代の大阪を舞台にしたシナリオを

作成するための関連文献を紹介するブックトークを実演した。大阪だけでなく、酒田市など全国各地を舞台にしたシナリオを作れるよう、ネットや地元の図書館で収集できる情報を中心に紹介したもの。

TRPG 支援ブックトーク補完計画

https://note.com/guutarabunko/n/nebab57eb0b29?_fsi=J6IgYEug

5 まとめ

- 図書館と利用者の繋がりを考える
- 利用者について考える
- 事前課題は図書館の外にでるための選択肢を増やすトレーニング